令和７年度第３回運営指導委員会（令和８年３月１６日（金）１５時２５分～１６時３０分）
議事録まとめ

１　課題研究発表会についての主な意見

（１）研究内容・発表について

仮説設定、実験計画、実験、考察までの探究プロセスが適切に行われており、全体として充実した研究発表であった。

発表資料は写真、動画、グラフ等を効果的に活用しており、分かりやすく整理されていた。

アブストラクトが準備されていたことで、発表内容の理解や質疑応答に役立った。

生徒からの質問も活発であり、鋭い視点での質問が見られた。

一方で、原稿やタブレットを見ながら発表する生徒もおり、聞き手を意識した発表力の向上が望まれる。

（２）研究の進め方について

研究期間の確保により、実験・考察・再実験のサイクルを経験できていた。

多くの班が何らかの結論まで到達しており、発表としてまとまりが見られた。

一方で、研究目的と実験内容、結論とのつながりが不十分な班も見られた。

研究テーマが大きすぎるため、実際の研究活動との間にギャップが生じているケースがあった。

継続研究では、先行研究の結果を踏襲するだけでなく、その前提条件や意義を再確認することが必要であるとの意見があった。

（３）発表会運営について

生徒同士の質疑応答を促す工夫により、質問力や批判的思考力の育成につながるのではないかとの提案があった。

発表によっては専門用語や前提知識の説明が不足しており、初めて聞く人にも分かる説明が必要であるとの指摘があった。

中間発表会での助言が最終発表に反映されており、早期の指導・助言の効果が認められた。

２　来年度計画に関する主な意見

（１）中間報告会の時期について

今年度は中間報告会を早い時期に実施したことにより、助言内容が研究活動に反映される効果が見られた。来年度は中間報告会を遅らせる計画であるが、改善のための時間確保という観点からは、早期実施にも一定の意義があるとの意見があった。

中間報告会の時期変更については、研究の進捗状況や指導効果を考慮して検討する必要があるとの意見が出された。

（２）運営指導委員の活用について

専門分野に応じた助言ができるよう、委員の活用方法を工夫することが望ましいとの意見があった。

普通科の探究活動への支援や助言の充実について期待が示された。

（３）成果発表の場の拡大について

オープンスクール等を活用し、中学生や保護者へ SSH の取組を発信することが有効ではないかとの提案があった。

地域の研究発表イベントやコンベンションへの参加を通して、成果発信の機会を広げることが提案された。

英語発表の成果を生かし、国内で開催される国際学会や国際会議に高校生部門として参加する可能性について情報提供があった。

3　今後の改善点

（1）研究指導の充実

研究テーマ設定後に、課題の背景や研究方法の妥当性について十分に検討する機会を設ける。

生徒が研究全体の中で現在の研究がどの位置にあるのかを把握できるよう指導する。

大きなテーマと研究活動をつなぐ中間目標や小目標の設定を支援する。

研究目的、方法、結果、考察の一貫性を意識した研究構成力を育成する。

（2）発表力の向上

聞き手を意識した発表態度を身に付けさせる。

初めて内容に触れる聴衆にも分かるよう、背景説明や用語説明を工夫する。

「最も伝えたい主張」を明確にしたプレゼンテーションを行うよう指導する。

（3）探究力の深化

実験の実施そのものが目的にならないよう、研究目的との関連を常に確認する。

結果から新たな課題を発見し、研究の方向性を見直す力を育成する。

研究結果を俯瞰的に捉え、その意義や位置付けを説明できる力を育成する。

（4）成果普及の強化

校内外に向けた成果発表の機会を増やし、SSH の取組の認知度向上を図る。

中学生、大学生、企業等との交流機会を充実させ、探究活動の成果を広く発信する。

国内外の学会や研究発表会への参加を積極的に検討する。

総括

課題研究発表会については、生徒の研究活動や発表資料の質の向上が高く評価された。一方で、研究目的と研究内容の整合性を意識した指導や、研究全体を俯瞰する視点の育成が今後の課題として挙げられた。また、成果発表の場を広げることや、研究活動の社会的発信を強化することへの期待が示された。